

Antoine Chintreuil

作品名 ラ・トルネル・セプティユ風景

アントワーヌ・シャントルイユ(1814-1873)



Antoine Chintreuil

アントワヌ・シャントレイユ(1814-1873)



作品名 ラ・トルネル・セプティユ風景

種類 キャンバスに油彩

サイズ 48.8×66.0cm

左下にサイン有り

【霧と朝露の画家】アントワヌ・シャントレイユの概要

シャントレイユはバルビゾン派を代表する画家の一人で 1814 年にフランス南東部のエン県ボン・ドウ・ヴォに生まれた。アルプス山脈、サオーヌ川、ローヌ川沿いの渓谷、中央山塊のなだらかな山々など多様な風景を持つローヌ・アルプ地方の一町である。コローの弟子でドービニーにも影響を受けており、そこから新たな自然をうたう独自の独創的な詩学、霧と朝露をうたう立体感と透明感と空気を感じる、まるで真珠の光り輝く採光が霧や朝露となって画面に広がる独自の画境を築き【霧と朝露の画家】と言われた画家です。とくに晩年に近づくにつれて完成度の高い作品を残し、1868年に制作され翌年のサロンに出品された縦 102×202cm の大画面の題名が《空》(space)作品は大好評を得て国家に即買い上げされました。彼が認められたのは晩年の4、5年でした。それまではコローの弟子であり、才能に恵まれた勤勉な風景画家であり貧しく体の弱い孤高の画家で色彩表現に優れた詩情豊かな画家でありました。1873年ウイーン万国博覧会にフランスの国選として飾られ賞牌が授与された。しかしそのことがフランスに知らされたのは彼が他界した後のことでした。

晩年になり完成の域に到達した1対2のパノラマと豊かな色彩からなるシャントレイユの様式は真に美しいものを認識しうる心眼の偉大さを物となっているのである。

【絵画的パノラマとなり自立した存在となった 1860年代】

それは作品画面が1対2の構図をとり、シャンプルーリーが「霧と朝露の画家」と呼びますように朝霧が朝日に照らされて消える一瞬の時を描き切った作品それが彼が目指した到達点なのです。最初の朝の光が差し込み暗闇から自然があかるむ瞬間霧が消える、その一瞬の光景を描き切るこれがシャントレイユの到達点なのである。刻々と移り行く自然の情景を前にして追求してゆくべき対象をどこでとらえるか。どの時点で捉えるか研究を重ねてきた結果の帰結。それが霧の明滅点の瞬間なのかもしれない。

この作品については

見ていると薄く朝焼けが掛かっている、その朝焼けの光に準じて草原の地面と家と小高い林の陰影が少しづつ色がぼんやり浮き出てくる。間もなく日の出の到来である。家の質感、林の量感、軽緑色の地面の色合い全てが明け昇る空の薄明に順化していくその刹那の静寂を捉えたシャントレイユの作品。陰影（影）と自然とのバランスが絶妙である光を通しての自然に対する観察が鋭い。

Antoine Chintreuil

アントワーン・シャントルレイユ(1814-1873)



作品名 朝もやの家

Antoine Chintreuil

アントワーヌ・シャントレイユ(1814-1873)



作品名 朝もやの家

種類 板に油彩

サイズ 21.8×19.7cm

裏面に封猟「Collection J. Desbrosses1907-CHINTREUIL」

Claude Aubry 鑑定証書付き

〔来歴〕: Jean-Alfred Desbrosses・De Bouyssou (パリ)

【霧と朝露の画家】アントワーヌ・シャントレイユの概要

シャントレイユはバルビゾン派を代表する画家の一人で 1814 年にフランス南東部のエン県ボン・ドウ・ヴォに生まれた。アルプス山脈、サオーヌ川、ローヌ川沿いの溪谷、中央山塊のなだらかな山々など多様な風景を持つローヌ・アルプ地方の一町である。コローの弟子でドービニーにも影響を受けており、そこから新たな自然をうたう独自の独創的な詩学、霧と朝露をうたう立体感と透明感と空気を感じる、まるで真珠の光り輝く採光が霧や朝露となって画面に広がる独自の画境を築き【霧と朝露の画家】と言われた画家です。とくに晩年に近づくにつれて完成度の高い作品を残し、1868年に制作され翌年のサロンに出品された縦 102×202cm の大画面の題名が《空》(space)作品は大好評を得て国家に即買い上げされました。彼が認められたのは晩年の4、5年でした。それまではコローの弟子であり、才能に恵まれた勤勉な風景画家であり貧しく体の弱い孤高の画家で色彩表現に優れた詩情豊かな画家でありました。1873年ウイーン万国博覧会にフランスの国選として飾られ賞牌が授与された。しかしそのことがフランスに知らされたのは彼が他界した後のことでした。

晩年になり完成の域に到達した1対2のパノラマと豊かな色彩からなるシャントレイユの様式は真に美しいものを認識しうる心眼の偉大さを物となっているのである。

【絵画的パノラマとなり自立した存在となった1860年代】

それは作品画面が1対2の構図をとり、シャンプルーリーが「霧と朝露の画家」と呼びますように朝霧が朝日に照らされて消える一瞬の時を描き切った作品それが彼が目指した到達点なのです。最初の朝の光が差し込み暗闇から自然があかるむ瞬間霧が消える、その一瞬の光景を描き切るこれがシャントレイユの到達点なのである。刻々と移り行く自然の情景を前にして追求してゆくべき対象をどこでとらえるか。どの時点で捉えるか研究を重ねてきた結果の帰結。それが霧の明滅点の瞬間なのかもしれない。

この作品については

見ていると薄く朝焼けが掛かっている、その朝焼けの光に準じて草原の地面と家と小高い林の陰影が少しづつ色がぼんやり浮き出てくる。間もなく日の出の到来である。家の質感、林の量感、軽緑色の地面の色合い全てが明け昇る空の薄明に順化していくその刹那の静寂を捉えたシャントレイユの作品。陰影(影)と自然とのバランスが絶妙である光を通しての自然に対する観察が鋭い。

Antoine Chintreuil

アントワーヌ・シャントルイユ(1814-1873)

作品名

朝もやの印象



Antoine Chintreuil

アントワヌ・シャントルイユ(1814-1873)



作品名	朝もやの印象
種類	キャンバスに油彩
サイズ	50×100cm (変形 仏40号)

展示会歴

「バルビゾン派と中心とする19世紀フランス絵画展」
(栃木県立美術館、1973年) 出展作品 同展図録 No.44 に掲載

【霧と朝露の画家】アントワヌ・シャントルイユの概要

シャントルイユはバルビゾン派を代表する画家の一人で1814年にフランス南東部のエン県ボン・ドウ・ヴォに生まれた。アルプス山脈、サオヌ川、ローヌ川沿いの渓谷、中央山塊のなだらかな山々など多様な風景を持つローヌ・アルプ地方の一町である。コロの弟子でドービニーにも影響を受けており、そこから新たな自然をうたう独自の独創的な詩学、霧と朝露をうたう立体感と透明感と空気を感じる、まるで真珠の光り輝く採光が霧や朝露となって画面に広がる独自の画境を築き【霧と朝露の画家】と言われた画家です。とくに晩年に近づくにつれて完成度の高い作品を残し、1868年に制作され翌年のサロンに出品された縦102×202cmの大画面の題名が《空》(space)作品は大好評を得て国家に即買い上げされました。彼が認められたのは晩年の4,5年でした。それまではコロの弟子であり、才能に恵まれた勤勉な風景画家であり貧しく体の弱い孤高の画家で色彩表現に優れた詩情豊かな画家でありました。1873年ウィーン万国博覧会にフランスの国選として飾られ賞牌が授与された。しかしそのことがフランスに知らされたのは彼が他界した後のことでした。

晩年になり完成の域に到達した1対2のパノラマと豊かな色彩からなるシャントルイユの様式は真に美しいものを認識しうる心眼の偉大さを物となっているのである。



代表作はL'espace(「空」又は「空間」)で、1868年にリシャールの招きを受けてパリ近郊のミルモン滞在中に描いたものである。1869年にサロンに出品されたところ大好評を博して国家買い上げとなり、オルセー美術館の一角を飾っている。この作品はオルセー美術館の代表作品20点に入っている。